

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E142N008	意味論研究 (Semantics Study)																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	4	教育学部 平成31年度以前入学生用			氏名 橋本 美喜男 E-mail mikioha@oita-u.ac.jp 内線 7578											
授業の概要	認知言語学の考えを英文法に実際に応用した文法書を授業で使用し、英語の文法を学生は深く理解すると共に中学校及び高校の教室で指導する際の具体的なアイデアを考える。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	「英語学研究2」の学習内容に基づき、本講義では認知言語学の基本概念を英語学習にいかに応用するかという応用認知言語学の																
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	導入 応用認知言語学について																
2	カテゴリーとその内部構造																
3	解釈とメンタルスペースについて																
4	推論と会話の含意について																
5	概念構造と言語構造について																
6	出来事の構造について																
7	可算名詞と不可算名詞について																
8	集合名詞と抽象名詞について																
9	不定表現と定表現について																
10	数量詞表現について																
11	修飾表現について																
12	出来事構造と相について																
13	出来事構造と時制について																
14	モダリティについて																
15	出来事スキーマと文構造について																
ラーニング	A:知識の定着・確認	関連する課題を考える時間を設ける。					工夫 その 他の	主に、英文の文献を読ませ、内容を英語で発表。									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	重要なキーワードを事前に調べてもらう。															
	学修	英語の発表に必要な英語表現を調べてもらう。(10h)															
	事後	授業での発表内容を英文にまとめてもらう。(10h)															
	学修																
教科書	Moodleを通してプリント等を配布する。																
参考書	岸本映子 (2014) 『英語の冠詞と<数>の仕組みが分かる指導』 大阪公立大学共同出版会.																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	毎回の授業中の課題	40%															
	最終の課題	60%															
注意事項	電子辞書を持ってくること。																
備考																	
リンク																	
	URL																